

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成22年度 第2回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成22年5月26日(水) 10時00分～12時00分		
開 催 場 所	川西市役所 2階 202会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、佐道副議長、小柳委員、渡邊委員、末澤委員、 安藤委員、岡田委員、田中委員、廣末委員、池田委員 計10名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育振興部長、中塚総務調整室長、仲学校教育室長、 林教育支援室長、谷社会教育室長、渡瀬中央公民館長、 大屋敷子育て室長、小田中央公民館主幹、河野生涯学習セ ンター所長、小倉青少年支援課長、金淵こども部主幹、岡 野社会教育室主幹、片山主任、下邨主事 計14名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第	1. 報 告 (1) 阪神北地区社会教育委員協議会 第1回理事会につ いて (2) その他 2. 議 題 (1) 会議録の承認について (2) 平成22年度「川西市社会教育委員の会」 年間テーマについて (3) 家庭教育支援・子どもの居場所づくりについて 3. その他		
会議結果	別紙のとおり		

議長	第2回社会教育委員の会を開会する。
事務局	挨拶
前回欠席委員	紹介（挨拶）
前回欠席事務局職員 議長	紹介（挨拶）
	1. 報告 （1）阪神北地区社会教育委員協議会第1回理事会が平成22年5月6日（木）13時30分より日生住民センター大集会室で開催された。議長よりその報告。
	2. 議題 議題に入る。
	（1）第1回議事録について。（全員承認）
	（2）年間テーマについて
	過去のテーマも参考に年間テーマを決めたいと思う。 昨年度は、「地域教育の向上をめざした仕組みづくり」のテーマで論議し、教育委員会にまとめの提出を行った。
J委員	20、21年度に「地域教育の向上をめざした仕組みづくり」をテーマで論議され、何らかの形のあるものが出来たのですか。
事務局	社会教育室は、学校支援地域本部という形で2年間、こども部は、放課後子どもプランを推進しています。 公民館、生涯学習センターもご意見をいただいて、子供向け講座を増やすなど取り組んでおります。
J委員	ありがとうございます。
議長	3月25日に論議し纏めたものを教育委員会に提出しております。 内容的には、「中学校区にコーディネーターを設けることの重要性」「地域が学校に協力するうえでの課題」及び「公民館活動が盛んであることを評価しながら、支援を進めていく必要性」などを述べております。

J 委員	<p>教育は、小さいことの積み重ねが大切で、身近で困っていることから始めるのがいいと思う。</p> <p>その積み重ねで大きなことが出来るのではないか。</p>
D 委員	<p>初めての方は、経過を熟知していなければはいりにくいと思うので、みんなが理解できるようなテーマが出せたら1番よいと思うが、阪神北地区社会教育委員協議会のテーマと全く違うテーマは、おかしいと思うが、その辺を議長の思いを聞かせいただきたい。</p>
議長	<p>学校教育は、日本の教育を背負って来たが、地域教育の視点は殆ど無かった。</p> <p>学校現場の委員さんは、別の世界の話のように感じられているかもしれないが、今の時代は発想を転換し、地域社会に支持される学校にならなければならないと思う。</p> <p>この会で、地域社会の声を纏め、専門的に提言をしていかなければならないと思う。</p>
D 委員	<p>行政から論議してほしいテーマはないのですか。</p>
議長	<p>行政からは、第2回は「家庭の力、学校園の力・地域の力・行政の力4つの力による学びの協働づくりと家庭教育支援・子どもの居場所づくり」、第3回は「学校教育と社会教育の連携、学校支援地域本部事業」、第4回は「社会教育施設における取組み状況」について論議していただいたらとの参考意見があります。</p>
J 委員	<p>この会議には、学校現場の委員さんや、社会教育現場の方も事務局として来られていますので、その方々が論議してほしいテーマに設定出来たらと思う。</p>
議長	<p>先に、事務局に現状の説明をいただき、それを踏まえてテーマ設定をしたいと思います。</p> <p>まず教育支援室より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>世の中が多様化し、子供達が育っている環境も様々で、相談事業も多種多様になると同時に、核家族化が進み、親も多くの不安を抱えているが相談する相手がいなくなっている。</p> <p>相談窓口では、直ちに結果が出ないことに厳しい批判があるが、なかなか結果の出ないのが教育ではなかろうかと思うので、長い目で見えていただける環境づくりをお願いしたい。</p>

議長	次は、学校教育室にお願いしたい。
事務局	<p>中学校はトライやるウィークで、小学校3年の自然環境体験を地域で色々な体験をさせていただいている。</p> <p>安全安心の部分では、登下校の時に見守りや声かけを地域の方に協力いただき、学校によっては、地域の教育力ということで授業内外を問わず学校に入らせていただき、大きな力になっている。</p> <p>最近地域の方から、規範意識部分で電話をいただくことがあり、ルールやマナーなどの指導が子ども達の生きる力に大きなウエイトであると思っています。</p> <p>ルールやマナーなどは、地域の方からのご指導が大きな学びになるので、その部分についてもご協力をお願いしたい。</p>
議長	次は、公民館にお願いしたい。
事務局	<p>公民館は市内10館あり、施設的には整っており、今年度も180講座を計画しています。</p> <p>但し、施設が老朽化しておりますので維持管理に力を入れていきたいと考えております。</p> <p>最近では、こども部の放課後こどもプランや社会福祉協議会のボランティア講座など、かつては公民館で行っていた事業をいろんな部署がやっており、社会教育と一般行政との区分けが無くなって来ています。</p> <p>同時に、即成果を求められる時代においては、公民館事業は成果が見えにくい分野ではないかと考えております。</p>
議長	次は、子育て室にお願いしたい。
事務局	<p>教育委員会の青少年支援部門が市長部局に移され、こども部が出来、3年目になり、成果が問われている時期になっている。</p> <p>子どもに関する施策は範囲が広く、社会教育の観点からは、青少年の健全育成支援が大きなテーマです。</p> <p>今年、次世代育成支援対策行動計画の後期計画を策定し、その中でも青少年の健全育成が重要な位置づけとなっています。</p> <p>学校との連携、教育委員会との連携がキーワードとなってまいりますので、ご意見をいただきたく思っております。</p>
議長	それでは、各委員さんから発言をお願いします。
F委員	学校は、地域からトライやるや学校支援ボランティアで力

<p>K 委員</p>	<p>をもらっている。</p> <p>学校の先生方も大きな力を持っておられるので、今後は、先生方が公民館等に出向かれて講座をもつなどすれば、生涯学習、社会教育の活性化につながり、地域・学校の相互にメリットがあると思う。</p> <p>学校支援地域本部事業で、今年初めて中学校区で図書ボランティアの交流会を開いたのですが、今までは隣同士の学校でも全然交流がなく各学校の活動でしかわからない。</p> <p>行政は、テーマを持って進められているが、基礎を理解されてない面もあり、学校とボランティアが上手く繋がらず、ボランティアの登録もそれだけで終わっている部分がある。</p> <p>中学校区にコーディネーターをとの話を聞いたが、上手く人選していかないと形だけで終わってしまう。</p> <p>図書ボランティアに限れば、市全体で受入れ体制が整っていないと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>現場で関わっていただいている部分の問題点ですね。</p>
<p>E 委員</p>	<p>行政でのいい仕組みや枠組みは出来上がっているが、中身の充実に至らず機能していないと思う。</p> <p>学校支援地域本部事業のボランティアに登録しても活用して貰えないとの話を聞いたことがあるので、この会では、学校支援地域本部の中身が充実していくような提言をしていくようにしたいと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>去年は、学校長の委員から現状の問題提起があり、今年もJ委員から問題提起がありましたので、学校現場の委員の方に発言をお願いしたい。</p>
<p>L 委員</p>	<p>学校は、常に門を閉じてなければならないが、門戸は常に開き、毎日がオープンスクールでありたいと思う。</p> <p>学校の常識は世間の非常識とよく言われ、地域からは、納税者の思いを汲んだ教育を行なっているのかと言われます。</p> <p>学力、体力の向上、豊かな心、規範意識にプラス子供達に競争する心、負けない心、強い気持ちを育ててほしいとのことですが、意識改革が職員全体に必要で、そこが一番欠けているところだと思う。</p> <p>学校長が言うよりも、常に風通しをよくし、子ども達をいろんな場面で、地域の方や保護者の方と触れ合わせる中で学ぶ部分が多いと思う。</p> <p>放課後こどもクラブ、おはなしわくわく、学校支援地域本部ボランティアなどを通じ、学校の中に地域の視点が自然な</p>

<p>議長</p>	<p>形で入って頂くことにより、常に風通しをよくしようと努めている。 是非来て頂き、目を見て頂いたらと思っています。</p> <p>先般、阪神北社会教育委員協議会の研修会で、他市の方は、川西市の各グループの実践発表を聞き、大きく評価されていました。 もっと支援していく体制を作らなければと思う。</p>
<p>M 委員</p>	<p>学校と家庭と地域社会との連携・協働というのは大きなテーマですが、学校は学校で、家庭は家庭でやるべきことはきちんとやっていくというのが大前提であると思う。 本校のPTAもその意識が強く、家庭ですることはきちりと言われており、当校の学校目標の一つの中にも適切な役割分担と入れている。 現実には、多くの問題があり、家庭でもお手上げの場合もあり、家庭教育支援の必要性は感じている。 PTA や教師だけの関わりには限界があり、地域社会で関わっていくシステムが必要であり、議題の中にある家庭教育支援をして頂くのが一番有難い。 小中連携の中で、同じベクトルで進んでいるが、こぼれてくる子どももあり保護者も困っている。 課題として、校外に出たからの子ども達の規範意識のくずれを感じており、地域でカバーしていく体制が必要である。 学校に入って頂くのには、年に3回各1週間オープンスクールを開設しており、その時に来ていただけたらと思う。</p>
<p>副議長</p>	<p>システムは整っているが、適切な情報が適切な人のところに伝わっていないため、使いたい側と使って貰いたい側が向き合っていない面がある。 同時に、使って貰いたい側は、使いたい側があるから成り立つことを踏まえることが大切である。 各学校は、いいアイデアを持っているので、それを共有出来ればと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>他の委員はどういう意見がありますでしょうか。</p>
<p>F 委員</p>	<p>相互の行き来、協働の意味では、地域教育の向上を目指した仕組みづくりがテーマとしては大きく含んでいると思う。</p>
<p>L 委員</p>	<p>F 委員の言われていることは素晴らしいことと思っていますし、学校の職員もそのように思っているが、人的に余裕がなく、きちきちでまわっている。</p>

<p>議長</p>	<p>その辺りをご理解頂きたい。</p> <p>その辺りのもあるので、各市とも委員には、学校現場の方が入っておられる。</p>
<p>M 委員</p>	<p>外国では社会教育がやっている部活動などを、日本では学校教育がやっており、その辺を整理しないと実際難しい。</p>
<p>議長</p>	<p>だからこそ行政だけでは解決できない現状があり、関連機関や議会も含めて、地域の声でしか変えていくことが出来ないと思う。</p> <p>学校支援地域本部も学校教育現場のゆとりのなさを支援していく事業であり、制度そのものはいいのですが、現実には学校にコーディネーターが入っても、教頭先生もてんでこ舞いで、新しい事業が、精神的にも負担になっている。</p> <p>学校現場では、学校は、学校でやるべき事をやってと言われますが、やるべき事はやってという部分が、保守的と言われる根源ではないかと思う。</p> <p>学校現場では、当たり前のことですが、学校現場も含めていろんな機関で応援していこうと言う時に、ちょっと待ってよ。と言われると思う部分がある。</p> <p>残り時間が少なくなって来たので、テーマを決定して次に進めて生きたいと思う。</p>
<p>D 委員</p>	<p>今までは、阪神北社会教育委員協議会のテーマに近いテーマだったのですが、近いテーマでないと阪神北や県社会教育委員協議会に参加した時に、共通の議論が出来ない部分があると思う。</p> <p>事務局からのアドバイスはアドバイスであって、諮問されているのでなければ、阪神北社会教育委員協議会のテーマに近づけた方が良くと思う。</p> <p>但し、内容は原点から積み重ねの方がいいと思う。</p>
<p>C 委員</p>	<p>テーマ設定としては、事務局のテーマで良いと思うし、阪神北社会教育委員協議会のサブテーマとも基本的には、一致するのではと思う。</p> <p>ざくっとしたサブテーマでは、なかなか難しいので、5月は家庭教育支援について、6月は学校支援地域本部事業について、7月社会教育施設の取組みについて、行政の中で説明いただく準備をされていると思うので、説明も受けながら、私たちが課題と感じた具体の課題を抽出し、連携、協働づくりを念頭に置きながら、具体的に解決する方法を考えたら、毎日が抽象的な論議にならないと思う。</p>

議長	<p>焦ってテーマを決める必要はないと思っているので、事務局が準備しているものでも阪神北社会教育委員協議会と基本的には、同じことなので。</p> <p>5月については、事務局が用意してあるもので論議して行きたいと思う。</p> <p>家庭教育支援・子どもの居場所づくりについて事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>子どもの居場所づくりについて現状を説明にします。</p> <p>先程より放課後子どもプランとありますが、その中身は2種類あり、小学校3年生までの児童で、放課後に親が自宅にいない家庭の子ども預かる「留守家庭児童育成クラブ」と、全児童を対象とし、子どもたちが地域社会の中で、放課後や週末等の余裕教室等を利用し、豊かに育まれる環境づくりを目的とした「放課後子ども教室」があります。</p> <p>放課後子ども教室は、運営委員会を設置しており、運営に関することを協議して頂いております。</p> <p>コーディネーターは元校長先生に依頼しております。</p> <p>活動内容につきましては、学習活動、各種の体験活動、地域の人との交流、様々な遊びなどがあり、各地域の事情に応じて活動して頂いております。</p> <p>基本的には教育課程外となっておりますが、学校の余裕教室を利用することや、地域の子ども預かることもあり、学校との連携協力が必要となっております。</p>
議長	<p>各委員さんはどのように感じられたでしょうか。</p>
M委員	<p>中学校の現場とは、かなり違う部分がありますね。</p>
J委員	<p>色々なメニューがあり、多くの方が参加し、地域密着でいいと思う。</p>
F委員	<p>この事業に参加されている方は、学校支援地域本部事業は別の人ですか、重なっているのですか。</p>
事務局	<p>人的には重なっている部分もありますが、制度的には別になっています。</p>
F委員	<p>同じものだと思っていました。</p>
K委員	<p>私は両方とも関わらせて頂いているのですが、先に放課後子どもプランが学校に立ち上がり、学校支援地域本部は後か</p>

	<p>らでした。</p> <p>放課後子どもプランは、学校毎の取組みで、今は多くの学校でされてますが、当初は3小学校のみで、一昨年学校支援地域本部が立ち上がった時は、放課後子どもプランと同じ方をお願いする形になりましたが、制度的には別物です。</p> <p>学校支援地域本部で南部地区のコーディネーターもしているのですが、学校に行くと、学校はボランティアに来て頂いても話をする時間もない状態で、ボランティアの方も生徒の指導について苦情を言われ活動の前に怒られる方もおられ、学校もお願い出来ない状況があるようです。</p> <p>ボランティアはさせて貰うと言う考えが重要ですが、お手伝いするのだからという意識の方が多くおられ、繋げられない状態のままです。</p>
E 委員	<p>学校に地域が関わるのに2つのルートがあるのですか。</p>
議長	<p>まだ他にもあります。学校独自の部分やら。</p>
K 委員	<p>全て中途半端で、勿体ない、繋げられたら思うことが沢山あります。</p>
E 委員	<p>色々なルートの方が関わっているということですか。</p>
事務局	<p>整理をしますと、子どもの居場所づくりを中心に、学校教育課程外で、学校とは一線を引いて地域の方が空き教室を使って、ボランティアでやっていただく放課後子ども教室。</p> <p>学校支援地域本部は、先生が多忙でゆとりがないので、学校教育課程内で学校教育の教師の支援をしていただくのがあります。</p> <p>実際されるボランティアは、地域の方なので一緒です。</p> <p>社会教育施設で勉強された方が、その成果を学校で発揮して頂く。</p> <p>大きな目的は、子どもを地域と家庭・学校が連携して育てていきたいと思いますということなので、上手く連携して行く為に、この会に関連する事務局も全て出席し、社会教育委員さんの意見を聞いて、それを参考にして行こうとしています。</p> <p>それ以外にも学校教育室では、いきいき学校応援団、学生ボランティア等、色々輻輳していますので、上手くやっていく様にしています。</p> <p>家庭教育の充実が言われていますが、実際どの部署がどのような事業を行なっているかが、見えてない部分があり、地域教育も市長部局の子ども部へ移管され、全体が見えてこない部分があるので、出来るだけ情報を必要な所へ行く様に、</p>

	<p>専門の方や、保護者の意見を聞いて進めていけたらと思っています。</p>
J 委員	<p>ほとんどボランティアがやっているということですか。</p>
L 委員	<p>全部です。</p>
J 委員	<p>それが難しいと思います。 日本のボランティアは、ボランティアの観念の理解が出来ていないので、行ってやっているという態度になる。 外国は幼少よりボランティアを行なっており、観念ができているので、そのような態度にはならない。 日本は、する側もされる側もボランティアに対する理解が出来ていないので、ボランティアに対する意識改革はこれからだと思う。 ボランティアの方の教育というか、難しいところです。</p>
議長	<p>私も実体験では、関わっているボランティア団体で、役員の解任騒ぎがありました。 ボランティアに対する捉え方や子どもに対する思いは一緒なのですが、ボランティア活動の認識、運営など、関わり方に格差があるのではと思います。 子どもを抱えた学校側は、色々な形で多くの問題点を抱えている。 今日はシステムの問題、子どもの居場所の部分から活動の認識をして頂きました。</p>
事務局	<p>次回は、学校支援地域本部の現状の説明を受け、問題点を論議して行きながら、纏めて行きたいと思っている。 テーマは、設定はしない形でさせて頂きたいと思う。 事務局より連絡事項をお願いします。</p>
議長	<p>阪神北地区社会教育委員協議会総会出欠確認。 次回の開催日程確認。</p> <p>以上で閉会する。</p>